



▼少年野球教室で、実技を交えながら子どもたちを指導する高崎投手



少年野球教室では、子どもたちの取り組むべき基礎として「筋トレなどよりも、まずはしっかり走って野球ができる下半身を鍛えること。そして、しっかりバランスの良い食事を取って、体を作るのが大切」とアドバイスをしました。

高崎投手は、白旗小で野球を始め、甲佐中、鎮西高を経て、社会人野球の日産自動車で活躍。平成19年に横浜に入団し、昨季は29試合に登板し、自己最多の5勝を上げ、防御率3・45。通算5年で、12勝19敗1セーブ5ホールド、防御率4・22の成績を収めています。

目指せ！プロ野球選手

高崎健太郎投手による少年野球教室

12月27日（火）甲佐小学校グラウンドで、本町出身で、プロ野球選手の高崎健太郎投手らによる少年野球教室が開催されました。

同投手後援会（奥名克美会長）が主催。プロ野球・横浜DeNAベイスターズに所属する同投手が講師を務め、町内をはじめとする少年野球に取り組み子どもたち約150人が参加。投打に渡る野球の基礎について実技を交えて学びました。

同投手は、白旗小で野球を始め、甲佐中、鎮西高を経て、社会人野球の日産自動車で活躍。平成19年に横浜に入団し、昨季は29試合に登板し、自己最多の5勝を上げ、防御率3・45。通算5年で、12勝19敗1セーブ5ホールド、防御率4・22の成績を収めています。

被災地での支援活動を発表

町くらし室・上古関係長が研修会で講演

12月22日（木）県庁で、東日本大震災をテーマとした県内市町村職員研修会が開催され、町くらし安全推進室の上古閑一徳係長が講師として、被災地支援活動に関する講演をしました。

大震災の発生後、県および県内市町村は合同で、被災した宮城県に職員を派遣し人的支援活動を展開。1月現在で、本町から職員9人、県内全体で約830人が支援活動に従事しました。

講演で上古閑係長は、震災直後の被災地の状況や支援活動の内容、非常事態を想定した自治体職員の意識の向上などについて話しました。



▲大震災での人的支援活動について発表する上古閑係長



▲九州大会ベスト16に進出した栗林・永野ペア

ソフトテニス九州大会に出場

栗林翔太くん・永野蓮斗くん(甲佐中2年)

12月24日（土）熊本市で、第26回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会が開催され、甲佐中2年の栗林翔太くん（西原区）・永野蓮斗くん（仁田子区）ペアが出場し、ベスト16に進出しました。

前衛を永野くん、後衛を栗林くんが務める同ペアは、昨秋の県新人戦で5位に入賞し、九州大会に出場。永野くんのミスなく確実にプレイする動きと、栗林くんの判断力のある勝負強いショットが試合で発揮でき、ベスト16まで勝ち上がりました。

栗林くんは「これからもっと練習して、夏の団体連で上位に入賞し、また九州大会に出場したい」と、永野くんは「団体戦で九州大会、個人戦では全国大会を目指してがんばりたい」と今後の抱負を語りました。

書と花で新春をことほぐ

「新春・書と花展」

1月4日(水)～13日(金)、町生涯学習センターで「新春・書と花展」が開催され、書き初め作品および初活け作品が展示されました。

同展は、甲佐町文化協会が主催、池坊いけばな研究会、緑石会、墨友会、甲墨会、稽園書道会、十七日会が共催。

日本の伝統文化の一つである書き初めと初活けの素晴らしさを広めるとともに、8日(日)の甲佐町成人式を祝することを目的に、書き初め・初活け作品各8点を展示。同センターを訪れた人々の目を楽しませました。



▲町生涯学習センターで開催された「新春・書と花展」



▲疾走する稲葉競技者(右)と久佐賀競技者

新春の駅伝大会で活躍

久佐賀悠競技者・稲葉智之競技者

1月1日(日)群馬県で開催された第56回全日本実業団対抗駅伝競走大会「ニコイヤ駅伝」に、本町出身で西鉄所属の久佐賀悠競技者(南三箇区)が出場しました。

同競技者は最終区の7区で出場し、15・5キロを48分18秒で力走。「元旦をレースで迎えられ、良いスタートが切れました。経験を今後に生かします」と話しました。

また、1月2日(月)・3日(火)に開催された第88回東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)に、帝京大学4年で主将を務める稲葉智之競技者(船津区)が、10区に出場。23・1キロを1時間13分32秒で走破。「チームも個人も目標を達成はできませんでしたが、箱根駅伝を走れる喜びを肌で感じました」と話しました。

12月17日(土)・18日(日)熊本市で、第21回グレンツェンピアノコンクール熊本大会本選が開催され、小学3・4年コースに出場した井上聖堂くん(甲佐小4年・岩下二区)が銅賞、山下日向さん(同小4年・西寒野区)が準優秀賞を受賞しました。

同コンクールは、予選・本選が全国約120会場で開催され、延べ35,000人が出場するピアノコンクールで、グレンツェン研究会が主催。8月に開催された県予選を通過して、本選に出場。各賞を受賞した2人は、3月に福岡県で開催される九州地区大会に出場します。

本選では、井上くんは楽譜に的確で、柔らかさと表現力のある演奏を披露。「自分としては、県本選では納得できる表現ができなかったので、九州大会では自分らしい表現を演奏をして、より良い賞を受賞できるようにがんばりたいです」と抱負を述べました。

また、山下さんはやさしく丁寧で、安定した内容で課題曲を演奏。「県本選ではミスがあったけど、テンポを守った演奏ができました。九州大会では、表現豊かな演奏でコンクールを楽しむことを心掛けたいです」と話しました。

ピアノコンクールで九州大会へ

井上聖堂くん(甲佐小4年)・山下日向ちゃん(同小4年)



▲グレンツェンピアノコンクール熊本大会本選で、小学3・4年コースで銅賞を受賞した井上くん(右)と準優秀賞を受賞した山下さん